

九州ルーテル学院大学

Teaching Portfolio

2021



所 属：人文学部 人文学科 こども専攻

名 前： 赤井 秀行

作成日：2021年11月1日

九州ルーテル学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

教員氏名：赤井 秀行

所属：人文学部 人文学科 こども専攻

1. はじめに

2021年4月に入職し、大学教員として主に小学校教員を養成する職務に従事してきた。教育における今日的課題に対して取り組むことのできる専門性や資質能力の育成と、学生の人間形成及びキャリア形成を支える責務を強く感じている。本学の掲げる「感恩奉仕」の精神を具現化するために、実践を省察した。

2. 教育の責任

九州ルーテル学院大学での私の教育責任は人文学部人文学科児童教育コースにおける専門科目と共通教育科目の担当である。特に、小学校教員免許状の取得を目指す学生に対する教育を中心に担当している。

2.1. 授業科目の担当

2018年～2020年度の3年間は以下の表の科目を担当している。

科目名	開講年度時期	履修者数	備考
算数科教育法	2021年度	50	専門教育
算数	2021年度	29	専門教育
フレッシュマンゼミ	2021年度	26	共通教育
教師力演習	2021年度	62	専門教育
児童教育フィールドワークⅠ	2021年度	21	専門教育
児童教育フィールドワークⅡ	2021年度	21	専門教育
小学校教育実習Ⅰ	2021年度	50	専門教育
小学校教育実習Ⅱ	2021年度	50	専門教育
職場体験学修	2021年度	29	専門教育
特別研究	2021年度	8	専門教育
卒業研究	2021年度	4	専門教育

■ 主要担当科目

「算数科教育法」

数学的な見方・考え方を働かせ、学習した内容を生活や学習で活用するための「数学的に考える資質・能力」を育成する算数科教育を講義のテーマとしている。算数科の5領域（「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」）における指導法に関し、様々な理論や児童の認識・つまずき等の観点から講義・演習を行うとともに、模擬授業によってその実践的活用力を高める。

「算数」

小学校算数科教育の実践には、基本的な数学的素養が必要となる。本講義ではその育成をねらいとして、算数科の5領域（「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」）の指導内容の数学的背景に関する講義・演習を行う。さらに、算数と数学をつなぐ視点から、算数科の指導内容の本質について考察する。

「児童教育フィールドワークⅡ」

観察実習（2年次）、教育実習（3年次）及び児童教育フィールドワークⅠ（4年前期）を踏まえ、次年度より学校現場で働くための専門的・総合的な知識および実践力を身に付けることを目的としている。そのため、学校現場と大学とを往還し、大学において小学校での体験のふり返しを行うことで、そのつどの課題を明確にした実習を行えるようにする。

学部での教育以外の教育実践は以下のようなものがある。

■ 非常勤講師

① 鳴門教育大学大学院「数学教育協力教材開発研究」

同大学院グローバル教育コースの学生を対象とし、国際教育協力の現場で必要となる、算数・数学科のねらいに基づく教材作成の理論及び実践に関する講義を行った。

■ その他

① JICA 令和3年度国別研修エルサルバドル「初中等算数・数学教育における学力評価に基づいた学びの改善」講師

算数・数学科における典型的なつまずきの解釈・解説及び、つまずきに基づく授業作りや指導法に関する講義を行った

② JICA 令和3年度国別研修パプアニューギニア「初等理数科教員養成教科プロジェクト国別研修」講師

当該国教員養成校教員を対象に、算数・数科学習指導案の作成方法やそのねらいについての指導に関する講義を行った

2.2. 教育組織運営

2021 年度は広報委員会、臨床研究所運営委員会のメンバーとして学内諸業務に従事している。

3. 教育の理念

確かな理論に基づく専門性と柔軟な実践力を兼ね備えた教員の養成を目指し、教育を行っている。専門性と実践力は独立したものではなく、相互に関連しあうものである。よって、日々の教育活動において、個々の学生がそれらを相互に関連付けることができるようになるための教育を目指している。また、社会の仕組みが大きく変化する現代の状況において、教員にも定められた問題に取り組むのではなく、自らが問題を発見し解決する力がもとめられる。そのため、問題発見及び解決を重視する教育を目指している。

3.1. 理念1 【理論と実践の往還】

講義においては、学ぶ理論が実際の教育現場・教室でどのように表れるのか、又、実際の教育現場・教室における事象をどのような理論を通して解釈するかという視点を重視する。

3.2. 理念2 【アクションリサーチの視点】

今日求められる「学び続ける教員」としてのとしての資質能力を念頭に、教育現場における実践家であるとともに、研究者としての視点を有した教師の育成を目指す。

3.3. 理念3 【情報活用能力の育成】

ICT 機器を前提とした社会・教育現場で活躍することを念頭に、ICT 機器を基盤としたコミュニケーション及び問題発見・解決の過程を重視する。これは、学生自身の学び方と、学修内容（教科指導法等）の両面において意識する。

4. 教育の方法

教育理念との関係では以下の点を重視した教育方法を取っている。

4.1. 小学校現場における資料の活用

小学校で使用される教科書の記述や図表に加え、小学校教員時のノートや教材、板書等の写真等を講義資料に活用し、常に理論と実践を関連付けて学べるように工夫した。また、教科指導・生徒指導における具体的な場面を端緒として、そこで必要となる理論に関する講義を進めたり、そのような具体的場面に関する演習活動を講義の中に多く取り入れたりしている。

4.2. 「原因と結果を分析する」という課題

特に児童・生徒とのかかわりに関する講義内容に関しては、その「原因と結果」について「分析的に考察」という視点から講義・演習を行った。例えば、ある児童の誤答について取り上げ、「その原因となるミスコンセプション」と「それを解決する指導法」、さらに「その指導法はなぜ対象とするミスコンセプションに有効なのか」という点を学生が分析的に考察する演習や、講義を行った。学生に知識を一方的に指導するのではなく、「原因と結果」といった視点を構築していくことにより、教育現場に出た際に直面する多種多様な児童の実態に対して分析し、対処する力を育成することをねらいとしたものである。

4.3. 情報通信機器活用の促進

「学生の学び方」という観点からは、講義中におけるタブレット・ノート PC・スマートフォン活用の促進、コミュニケーション・情報収集・記録などの多様な手段として活用できるようにした。また、講義資料も ICT 機器と親和性があるように作成した。「学修内容（教科指導法等）」の観点からは、特に教科指導における ICT の活用についてプログラミング教育に関する内容だけでなく、算数科の各領域における日常的な指導においてどのように ICT が有効に活用されるか、児童の主体的・対話的で深い学びにつながるかといったテーマを講義・演習に多く取り入れた。

5. 教育改善のための努力

5.1. 改善努力1 授業評価アンケートと授業改善報告書

2021 年度前期の授業評価アンケートにおいては、一部の講義で、課題に対しての教員からのコメントが十分ではなかったとの指摘があった。コメントに関する評価の高かった講義と比べると、頻度をあげることだけでなく、「コメントのねらいやテーマ」を明確にすることが重要であると考えられる。さらに、教員からの一方的なコメントだけでなく、双方向のやり取りや、15 回の講義を通じた一貫性のあるやり取りなどの手法についても他の教員の実践を取り入れたい。

5.2. 改善努力2

教科教育に関する研究や実践は常に進められ、新たな知見が多く生み出されている。そのため、教員としても継続的なアップデートが重要である。そのため、研究においても個人研究だけでなく、学内外の幅広い研究者との共同研究に積極的に参加し、自身の幅を広げるよう取り組みたい。また、大学での教育活動について不慣れな部分も多く、他の教員の実践や工夫についても積極的に学び、自身の講義に活用したいと考えている。

6. 教育の成果・評価

大学における講義を構成するにあたり、小学校教員としての教科指導・生徒指導という点において必要となる事柄について不足なく扱うように心掛けたが、一方で十分に整理しきれていなかったと感じている。「あれもこれも」とすべてを詰め込むのではなく、どのように整理し講義・演習で扱うことが最も学生の学びを深め、小学校教員としての資質能力の育成につながるかを、今一度整理する必要がある。

さらに、講義だけで学びを完結するのではなく、その後の学生生活や小学校教員としての日々の中で、自分自身で学び続けていくことのできる素地を育成するという視点も踏まえ、教育内容や方法を再点検したい。

7. 今後の教育に関する課題と目標

ICT を活用した学生の学びについて様々な試行錯誤を行ってきたが、まだ十分とは言えない。特に、ICT を活用した教員と学生・学生同士のコミュニケーションを基盤とした学びという点について課題が多い。現在、様々な授業支援システムがあり、その中には無料で利用できるものもある。今後はそれらを活用し、大学における学び方をアップデートしていくことのできる実践を模索したいと考えている。

8. 参考資料

- (1) 担当科目シラバス
- (2) 授業評価アンケート結果